

令和 5 年度

全国学力・学習状況調査における山口市の結果概要について

山口市教育委員会

1 調査の概要

(1)目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証して、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2)調査期日 令和5年4月18日(火)

英語「話すこと」調査・・・令和5年4月18日(火)～5月26日(金)

(3)調査対象 小学校第6学年児童
中学校第3学年生徒

(4)調査の内容

I 教科に関する調査(小学校:国語、算数 中学校:国語、数学、英語)

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※中学校英語「話すこと」調査及び児童生徒質問紙調査(一部)について、児童生徒が活用する ICT 端末等を用いたオンライン形式により実施

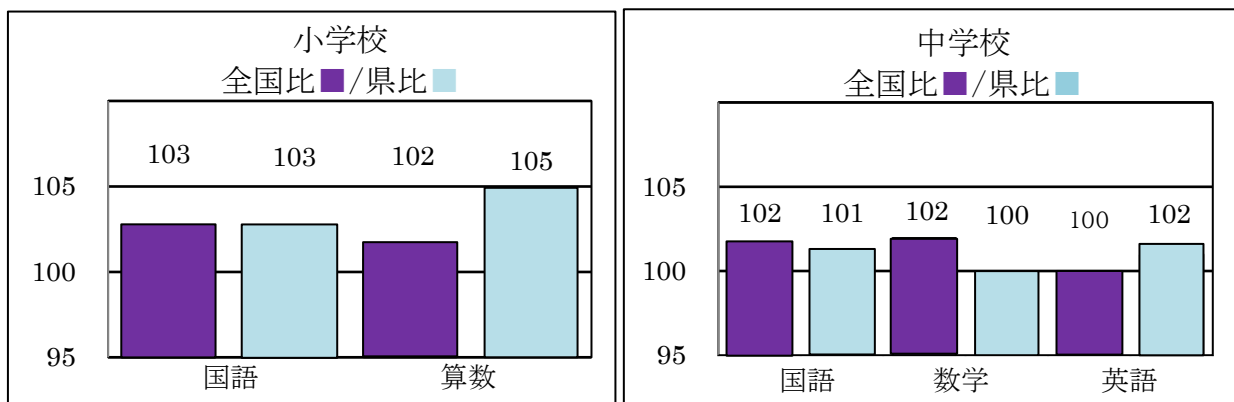
II 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ア 児童生徒に対する調査(児童生徒質問紙)
- イ 学校に対する調査(学校質問紙)

2 教科に関する結果

(1) 山口市と全国・県の各教科平均正答率の比較

全国・県の平均正答率を100として、各教科における本市の結果(指標)をグラフで表しています。



* 小数点以下は非表示

○各学校や児童生徒の日々の取組の成果として、小学校・中学校ともに、国語、算数・数学、英語のすべてにおいて県平均正答率と同等または上回る結果となりました。また、学習指導要領に示されている各教科の内容に関する項目についても、ほぼすべてにおいて全国・県平均正答率を上回りました。しかしながら、各教科に課題の見られる問題もあるため、授業改善に引き続き取り組んでいきます。

(2) 成果と課題

各教科の調査問題[※]における解答の結果について、本市における傾向をまとめています。

- ◎…正答率が高かった問題や、経年比較による課題の解決が見られる問題
- ▼…本市の正答率が50%以下、または全国平均正答率を下回る等、課題の見られる問題

※各教科の傾向の後にある(□)の一などは、問題番号です。

また、解答結果から見られる学びのポイントについて、次の2点でまとめています。

- 🔍 …解答結果の考察
- ❗ …学びのポイント

(3) 結果と傾向分析の活用

3ページ以降の本市における各教科の傾向については、教育委員会から各学校に対して、担当者会議や研修会等で取り上げ、授業改善につなげていくとともに、内容によって家庭や地域に情報提供をしていくこととしております。

※調査問題の詳細や全国の調査結果、授業アイデア集などは、国立教育政策研究所の「教育課程研究センター全国学力・学習状況調査」内、「令和5年度調査」のリンクから閲覧することができます。
(<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>)

- ◎必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心を捉えること。(3の一)
- ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。(2の四)
- ▼図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。(1の二)
- ▼目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。(3の二)

<解答結果から見られる学びのポイント>

—国語1の二 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する—

【川村さんの文章】

学校の田んぼで取り組んだ米作りの問題点とその解決方法

今年の米作りでは、たくさんのお米をしょうかくすることができました。しょうかくまでに、いくつかの問題がありました。その中でも特に伝えたい問題点とその解決方法について説明します。

5月下旬に学校の田んぼにええを植えました。6月の終わりまで、週に1回、グループの3人で雑草取りを続けたのですが、アいかに雑草が生えてきて、とてもこまりました。そこで、雑草の量について、農家の田んぼとイくらべてみました。うきかんは7月1日から15日までです。

右のグラフは、その結果をもとにして作ったものです。

農家の田んぼと学校の田んぼの雑草の量

日	農家の田んぼの雑草の量	学校の田んぼの雑草の量
7月1日	2	2
7月8日	3	3
7月15日	4	1

10mあたりの雑草を取って同じ大きさのバケツに入れ、その個数を雑草の量とする。

このようなことに取り組む、9月の下旬にお米をしょうかくすることができました。

【カード①】

6月24日

- 思ったより学校の田んぼに雑草が生えてきた。
- このまま雑草が増えたら米のしょうかくにえいきょうするのではないかと心配だ。

【カード②】

6月30日

- 雑草取りをしているが、農家の田んぼには見られないほど、雑草の量が増えてきた。どれくらい増えているのか雑草の量を調べる。
- 調査方法 週に1回、農家の田んぼと学校の田んぼの雑草を取って、量をくらべる。
- 調査さかん 7月1日～15日

【カード③】

7月19日

- 学校の田んぼでは、雑草の量に対して雑草取りが追いついていないと考えられる。
- 雑草の量と米のしょうかくの関係について農家の石山さんに話を聞きに行く。

【カード④】

7月20日

【農家の石山さんのお話】

- 雑草に栄養をとられると、米のしょうかくが減る。
- 雑草が多いと、いねが病気になることがある。
- 農家は、さまざまな方法で雑草が生えないようにしている。

【カード⑤】

7月21日

【学校でできる解決方法】

- 雑草取りの回数を増やす。
- 雑草取りの人数を増やす。

◎ 川村さんは、学校の田んぼで取り組んだ米作りについて文章を書こうとしています。次は、川村さんの考えと川村さんが選んだ「カード①」から「カード⑤」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【川村さんの考え】

雑草が増える問題が起きたけれど解決してよかったな。米作りのときに記録していたカードの中から選んだカードをもとに、米作りに興味のある人に向けて、問題点とその解決方法を書こう。

◎ 学校の米作りの問題点については、「川村さんの文章」のグラフ「農家の田んぼと学校の田んぼの雑草の量」と「カード②」のそれぞれから分かることを書くこと。⑤をもちいて書くこと。六十文字以上、百字以内でまとめて書くこと。

二 川村さんは、選んだカードをもとに、次の「川村さんの文章」の問題点とその解決方法について書こうとしています。あなたが川村さんなら、学校の内容をどのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましょう。

に学校の米作りに入る内容を

1

川村さんは、学校の田んぼで取り組んだ米作りについて文章を書こうとしています。次は、川村さんの考えと川村さんが選んだ「カード①」から「カード⑤」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

正答例

グラフから分かるように、学校の田んぼでは雑草が増え続けていたため、雑草に栄養をとられてしょうかくが減ってしまうかもしれないという問題点がありました。そこで、雑草取りの回数と人数を増やすことにしました。(100字)

個々の資料の内容を捉えることはできています。一方で、目的に応じて複数の資料を関連付けて読み取り、文章をまとめることに課題が見られます。

目的に応じて複数の資料を関連付けて読み取り、文章をまとめるには、資料を読む目的を明確にすることが大切です。同じ文章で目的を変えて読んだり、目的を変えて読んでまとめたものを教材として、どこが違うか、なぜ違うかについて考えたりするなどの学習活動を設定することが考えられます。また、資料の関連性をつかむためには、各資料の概要を短い言葉に表してタイトルをつけたり、つながりに印をつけたり線を引いたりする学習活動を設定することが考えられます。

国語科だけでなく、様々な教科等において、機会を捉えて、目的に応じて複数の資料を関連付けて読み取り、文章をまとめる指導をしていくことが大切です。

- ◎伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めること。(1)の(1))
- ◎伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いること。(1)の(2))
- ▼正三角形の意味や性質について理解すること。(2)の(3))
- ▼高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること。(2)の(4))

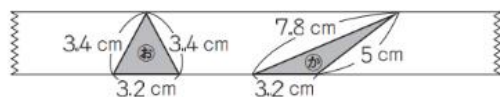
<解答結果から見られる学びのポイント>

－算数2の(4) テープを直線で切ってできた二つの三角形の面積の大小について

分かることを選び、選んだわけを書く－

2

(4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような㊸と㊹の2つの三角形をつくります。



上の㊸と㊹の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 ㊸の面積のほうが大きい。
- 2 ㊹の面積のほうが大きい。
- 3 ㊸と㊹の面積は等しい。
- 4 ㊸と㊹の面積は、このままでは比べることができない。

正答例

3

三角形の面積は、底辺×高さ÷2で求めることができます。㊸と㊹の底辺は、どちらも 3.2cmなので等しいです。㊸と㊹の高さは、テープのはばがどこも同じ長さなので等しいです。だから、㊸と㊹の面積は等しいです。



与えられた条件に沿ってテープを切った時にできる四角形が、正方形であると解答できている児童が高い割合で見られます。一方で、ある辺を底辺としたときに高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を説明することに課題が見られます。なお、選択肢4を選んでいいる児童も見られ、三角形の高さについて理解することにも課題があります。



基本図形の面積の公式の理解を深め、活用できるようにすることが大切です。そのために、三角形の底辺と高さの関係の理解を確実にすることが重要です。授業において、面積を求める際に、どこの部分の長さを測る必要があるかを他者と確認し合うことで理解を深めることができます。

- ◎文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること。(2)の四)
- ◎自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くこと。(3)の四)
- ▼文脈に即して漢字を正しく書くこと。(3)の二)
- ▼文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。(4)の三)

＜解答結果から見られる学びのポイント

－国語4)の三 現代語で書かれた「竹取物語」の工夫について、古典と比較して書く－

4

〈現代語訳〉
 今ではもう昔のことだが、竹取の翁という者がいた。野や山に分け入って竹を取っては、いろいろなことに使っていた。名前を、さぬきのみやつこといった。その竹の中に、根もとの光る竹が一本あった。不思議に思って、近寄って見ると、筒の中が光っている。それを見ると、三寸ほどの人が、とてもかわいらしい様子で座っている。

〈原文〉
 今は昔、竹取の翁といふものありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。名をば、さぬきの造となむいひける。その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。あやしがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いとつくしうてゐたり。

三 「学校図書館で見付けた『竹取物語』の一部」は、古典の作品である「竹取物語」に、作家の星新一が工夫を加えて現代語で書いたものです。どこがどのように工夫されていると考えますか。「授業で読んだ『竹取物語』の一部」や「学校図書館で見付けた『竹取物語』の一部」の表現を取り上げて、あなたの考えを書きなさい。

石井さんは、国語の時間に、「竹取物語」を読みました。そのあと、学校図書館で、現代語で書かれた「竹取物語」を見付け、読み比べてみました。次は、「授業で読んだ『竹取物語』の一部」の（原文）とその（現代語訳）、「学校図書館で見付けた『竹取物語』の一部」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

※『星新一「竹取物語」』については、著作権の関係上、問題冊子を御確認ください。

正答例

「よろづのこと」を「笠、竿、笊、籠、筆、箱、筒、箸」というように具体的に書いて、翁が竹でどのようなものを作っていたのかが分かるようにしている。

2つの文章の表現方法の違いに着目することができていました。一方で、その違いを指摘するにとどまり、自分の考えを述べることができていない誤答が見られます。

文章の叙述を引用して取り上げることが自分の考えであるという誤った認識をしており「根拠を基に自分の考えを書く」ということが、具体的にどのようなことなのかイメージできていないという課題が見られます。

「根拠(文章の叙述)」と「自分の考え」が書かれている部分がどこにあたるのかを区別する力が必要です。授業での振り返りや日記において、事実(出来事やわかったこと等)だけでなく、感じたことを書かせる等、「根拠」と「自分の考え」等の一文一文の役割を認識させながら読んだり書いたりする経験を積みさせることが大切です。

- ◎数と整式の乗法の計算ができること。(2)
- ◎問題場面における考察の対象を明確に捉えることができること。(6)の(1)
- ▼空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解できること。(3)
- ▼ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができること。(9)の(1)

<解答結果から見られる学びのポイント>

—数学9の(1) 2つの直線BCと直線AEが平行であることを三角形の合同を基にして
同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する—

9 次の図1のように、 $CA = CB$ の二等辺三角形ABCと、 $\triangle ABC \cong \triangle DEF$ となるような $\triangle DEF$ の2つの三角形を厚紙で作ります。

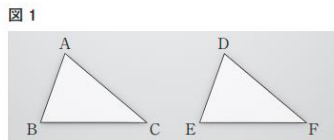
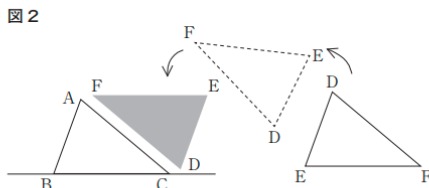


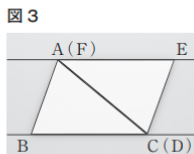
図1の2つの三角形の厚紙を使って、次の方法1と方法2でそれぞれ2つの直線をひきます。

方法1

① $\triangle ABC$ を置いて、直線BCをひく。そして、図2のように、 $\triangle DEF$ を回して、点Fを点Aに、点Dを点Cに重ねる。



② 図3のように、点Aと点Fが重なった点をAとして、直線AEをひく。また、点Cと点Dが重なった点をCとする。



優奈さんは、方法1の直線BCと直線AE、方法2の直線BCと直線AFがそれぞれ平行になるのではないかと考え、調べることにしました。

次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

(1) 優奈さんは、前ページの方法1の直線BCと直線AEが平行になるかどうかを調べるために、右の図6をかきました。図6の $\triangle ABC$ と $\triangle CEA$ は、それぞれ $CA = CB$ 、 $AC = AE$ で、 $\triangle ABC \cong \triangle CEA$ です。

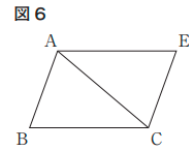


図6において、 $BC \parallel AE$ であることは、すでにわかっている $\triangle ABC \cong \triangle CEA$ をもとにして、同位角または錯角が等しいことを示すことで証明できます。 $BC \parallel AE$ であることを証明しなさい。

正答例

$\triangle ABC \cong \triangle CEA$ より、
合同な図形の対応する角は等しいから、
 $\angle BCA = \angle EAC$
よって、錯角が等しいから、
 $BC \parallel AE$



本問題では、図形についての考察場面において、平行が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明することを求めています。二直線が平行となる根拠を明らかにするために、具体的に等しい錯角の関係をきちんと記述して証明することができます。一方で、誤答では、「錯角が等しいから、 $BC \parallel AE$ 」のように、二直線が平行になる具体的な根拠が不十分な解答も見られます。



筋道を立てて証明するためには、根拠となる事柄を1つ1つしっかりと示すことが大切です。本問題のように、合同な図形を動かす場面を考えるとときには、実際に厚紙を使ったり、1人1台端末などを活用したりして、図形を観察することで等しい辺や角などが見つけやすくなります。こうした操作をとおして、見つけた根拠を基に、論理立てた説明を考え、他者と確認し合うことで図形の性質の考察を深めることができます。

- ◎状況を描写する短い情報を正確に聞き取ること。(1)の(1))
- ◎短い文章の要点を捉えること。(8)の(1))
- ▼自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ること。(6)
- ▼社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くこと。(8)の(2))

<解答結果から見られる学びのポイント>

ー英語8(1)(2) ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の伝えたい内容を捉えたり
書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書いたりするー

8 英語の授業で、ブラウン先生が作成した文章が学習者用端末に送信されました。これを読んで、以下の問いに答えなさい。

Today we see many kinds of robots around us. They are helpful. When I went shopping, I saw a robot and it was working as a guide. I could talk to the robot in English or other languages. At some restaurants, robots bring our meals. They can carry many plates at one time. Thanks to them, the restaurant doesn't need a lot of staff members. We have robot pets, too. We can have them even if we are busy with work or we live in small apartments. People will have fun if they live with robot pets. As I explained, robots can change many people's lives for the better. Do you agree with me? Why or why not?

(1) ブラウン先生が最も伝えたいことを、下の1から4までの中から1つ選びなさい。

- 1 We see many kinds of robots around us.
- 2 I saw a robot and it was working as a guide.
- 3 People will have fun if they live with robot pets.
- 4 Robots can change many people's lives for the better.

正答 4

(2) ブラウン先生の質問に対するあなたの考えと理由を英語で簡潔に書きなさい。

※ 下の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

(注) plate: 皿 even if ~: たとえ~だとしても
apartment: アパート agree with: ~に賛成する

正答例

・I agree with you. If robots do our housework, we will have more time.
・I don't agree with you because people will lose their job.



(1)の書き手の最も伝えたい内容を選択する問題については、全国・県平均ともに上回っています。一方で、(2)については、書き手の意見に対する自分の考えは書けていますが、理由を書くことに課題が見られます。どのようなことを書けば理由になるのかが分かっていないことや、理由を書くために必要な表現が身につけていないということが考えられます。



読んだことを基に自分の考えとその理由を書く際には、読み手として主体的に考えたり、判断したりしながら、理解したことを基に、目的や場面、状況に応じて表現する力が求められます。基本的な語句や文法事項等の習得だけでなく、読む目的に応じて要点を捉えた上で、内容に対する感想や賛否、自分の考えなどを話したり書いたりして表現するような言語活動を行うことが大切です。

3 生活習慣や学習環境等の結果

◎…望ましい状況 ▼…課題の見られる状況

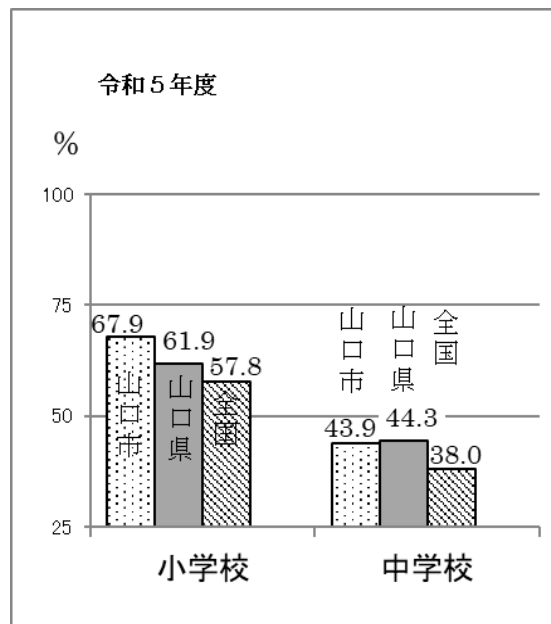
◎地域とのつながりについて

「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答している児童生徒の割合は、小学校では全国・県平均を、中学校では全国平均を上回っています。

多くの小・中学校が児童生徒を交えた熟議に取り組んでおり、昨年度は、熟議で話題となった子どもたちの思いや提案の具現化に努めました。

今後はコミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育を推進する中で、育みたい資質・能力や学校と地域が連携・協働する活動を整理した「学校・地域連携カリキュラム」の活用の推進が求められます。

教育委員会では、各家庭において子どもの成長を支える地域の一員としてできることについて話し合う機会の大切さを継続して呼び掛けて参ります。



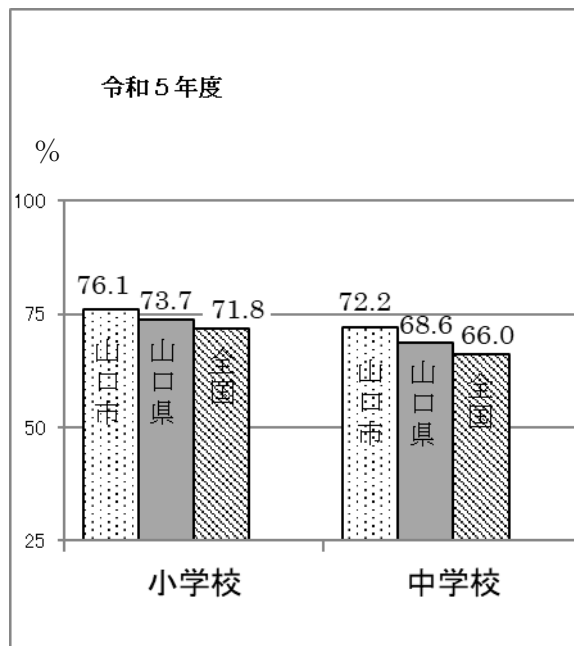
◎読書活動について

「読書は好きですか」という問いに、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、小学校、中学校ともに全国・県平均を上回っています。

「本は心の栄養」と言われるように読書活動は、児童生徒が、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにします。

今後も読書活動の時間を確保していき、本と出会う機会を多くつくり、読書習慣の定着を促進させていきます。

教育委員会では、各家庭において本を介した家族での温かい心のふれあいの時間をもつことの重要性を学校を通して呼び掛けて参ります。



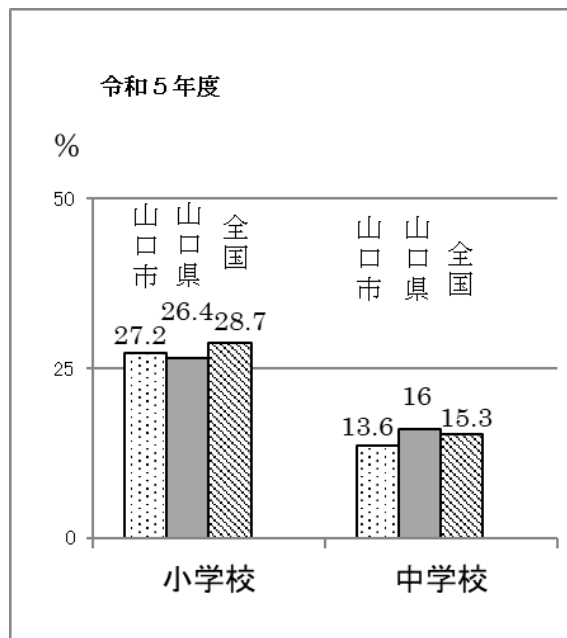
▼家庭学習習慣について

「家で自分で計画を立てて勉強している」と回答した児童生徒の割合は、小学校は、県平均を上回ったものの、全国平均を下回る結果となっています。中学校は、全国・県平均ともに下回る結果となっています。

多くの小・中学校において家庭での学習の充実や習慣化をめざして自主学習の取組を行っております。

その際、児童生徒によって、取り組む内容や時間の長短に偏りが生じることがあります。

教育委員会では、さらなる家庭学習の取組の充実を図っていくために、発達段階に応じて、自ら学習計画を立てたり学習内容の工夫をしたりするような指導を推進して参ります。

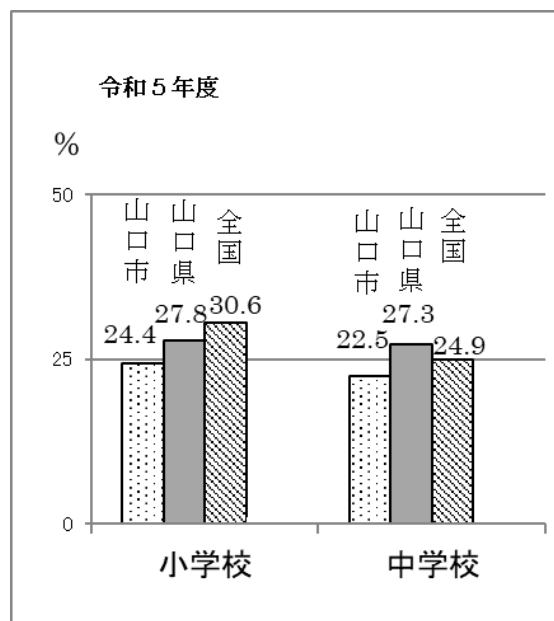


▼学級活動における意思決定と実践について

「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる」と回答している児童生徒の割合は、全国・県平均ともに下回っています。

学級活動では、個人や学級の課題を全体で話し合い、各自が意識して取り組む目標を設定する場面があります。各校において、学級活動の内容を発達段階に応じて時数配分して位置づけています。

教育委員会では、学級会における集団での合意形成の重要性をおさえつつ、個人での意思決定と実践をとおして「為すことによって学ぶ」という特別活動の原理により成長する機会を多くもつことができるよう、教育課程や特別活動に関する研修会で周知を進めて参ります。



4 課題解決に向けた各学校の取組事例

○ A小学校等では、1人1台端末の持ち帰りによる家庭での具体的な取組として、録音機能を用いて指定された場面の音読を録音してWEBページ(担任宛)に提出しています。このことにより担任は、瞬時に一人ひとりの音読の様子を確認することが可能となり、個に応じた支援の方法を検討する重要な手掛かりとしています。児童にとりましてこうした取組をとおして、日常的に自分の声を録音・確認する機会があることは、学んだことを表現する力を育む上で非常に有効です。

○ E小学校とF中学校では、来年度から全面実施となる小中一貫教育の推進のため、何度も協議を重ね、既に決定していためざす子どもの姿をもとに教員研修の主題を揃えました。各校でその主題実現のため研修の充実を図りながら、年間3回の小中合同研修会を実施しています。各校種の授業を見合い、協議をすることや学力に関する熟議を通して、9年間の学びの重要性を確認し、絶えず成果と課題の検証を継続しています。


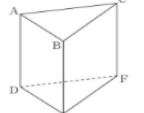
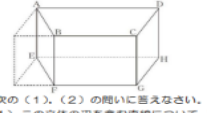


○ B小学校等では、授業の中で学習の習熟度ごとにグループを編成し、地域の方々にも支援に入っただきながら、子どもたち一人ひとりに寄り添った個別支援の時間を設けています。また、C中学校においても、テスト期間中や長期休業中などに、地域の方々や保護者、大学生の協力を得て、学習会を開くなど、コミュニティ・スクールの仕組みを活用した学習会を行っています。

○ ここ数年で、児童生徒が、自主学習等で活用できるように、やまぐち学習支援プログラム専用のプリントボックスを設置する学校が増えています。解答とセットで用意しており、自己採点ややり直しもできるようにし、自主性を重んじた学びの仕組みを構築しています。

やまぐち学習支援プログラム(県作成)

○ D中学校では、子どもたちの姿を中心に据えた授業づくりについて全校体制でアプローチするために、学校教育課指導主事に道德の授業を依頼し、多くの教員が生徒と同じ目線で授業を受けました。また、生徒が関わり合う場面を設定するため、議論する必要のある問いの重要性や思考の可視化などについて体感しながら学ぶ機会をもちました。その後、授業に関する振り返りを行い、日々の授業改善のために大切にすべきことを確認しました。

やまぐち学習支援プリント 空間図形 ステップ1 月 日 ()

中学校 1年数学	組 番 氏名
<p>問1) 次の直方体について、(1)、(2)の問いに答えなさい。</p>  <p>(1) 面CGHと平行な辺がいくつかあります。そのうちの1つを書きなさい。</p> <input type="text"/> <p>(2) 辺CGに垂直な面がいくつかあります。そのうちの1つを書きなさい。</p> <input type="text"/> <p>問2) 下の図の三角柱について、次の(1)、(2)の問いに答えなさい。</p>  <p>(1) 辺ADとねじれの位置にある辺がいくつかあります。そのうちの1つを書きなさい。</p> <input type="text"/> <p>(2) 辺DFと平行な辺を書きなさい。</p> <input type="text"/>	<p>問3) 次の図のような、直方体から三角柱を切り取ってつくった立体があります。</p>  <p>次の(1)、(2)の問いに答えなさい。</p> <p>(1) この立体の辺を含む面について、下のアからエまでのの中から正しいものを1つ選びなさい。</p> <p>ア 直線BFと直線DHは交わる。 イ 直線BFと直線CGは交わる。 ウ 直線ABと直線EFは交わる。 エ 直線ABと直線DCは交わる。</p> <input type="text"/> <p>(2) 辺BFと平行な辺がいくつかあります。何本あるか答えなさい。</p> <input type="text"/> <p>問4) 右の正四面体で、辺BCとねじれの位置にある辺をすべて答えなさい。</p>  <input type="text"/> <p>問5) 右の三角柱について、面ABCに垂直な辺をすべて答えなさい。</p>  <input type="text"/>